曜日が五葉山の山開きの ある。六月の第一週の日 山登山をした時のことで

い茂る木々の下に入り込

いつの間にか鬱蒼と生

地表に這い出している。

思える。高校卒業後貨物

「まわりみち」のように

船を運航する会社に勤

石炭やセメントを運

足元は薄暗い。根が

渡せる頂上に近い稜線で た。そこはどこまでも見 の背のような場所に出

日で、その日は天気に恵

(日曜日) い穴になっていて地の底 生に引き連れられて五葉 登った時の印象である。 松ろしい場所にきてしま から吸い込まれそうだ。 った」――。初めて黒岩を 見を教えてくださった先 つうか。当時、美術と体 区の二年生の頃であった 陸前高田市立横田中学 岩と岩との隙間が暗

ビクビクしながら登っ

やがてゆったりした牛

を登ったのだろう。大き に落ちるのではないかと な岩と岩の隙間の深い穴 思うどきっと黒岩コース 先は自分の足で進む。今 まではバスで、そこから いであった。 かった。赤坂峠からはバ ガスが出て天候は一変 坂峠に出た。下山時には 帰りは大船渡市側の赤 周囲の景色は見えな 創五 葉 10周年に寄せ Ш 自然倶楽部

スを乗り継ぎ帰路に就い 思えば私の人生もまた 観を考える会」に入れら 車専用船などに乗って海 十三年三月のことだっ もない「横田地域農村景 六年働いた。 上サラリーマンとして十 た。貨物船、鉱石・自動 横田に帰ると、設立間

どである。足を運べば運

八滝」「雷神山」「清滝」な

の大滝」「小坪川」

果だけを気にしながら歩

まっすぐに急ぎ足で結

いてしまうと、見過ご

杜」「本宿川上流」

ぶほどに引き込まれ、訪

れてみたくなる。横田を

りみち」をすることで初

横田地域農村景観を考え 陸前高田市横田町在住。 ル】一九五三年生まれ。

執筆者プロフィー

に気がつかない。「まわ し、失いかけているもの

わりみち一に思うこ

陸前高田市横田町 理事にさせられてし 組

まった。「考える会」で 閣」「おしら様」「名勝」な 「氏神様」「神社・仏 だよ」「また来たくなる 神秘的だ」「奥入瀬以上 よ。誰かを連れてね」な すごいね」「とっても

ど地域の『宝』探しを始 めることとした。写真を 撮り始めてみると今まで に同じように心が揺さぶ なる。私が感動した『宝』 どの感想を聞くと嬉しく

ある。横田から登山口の

私を含め四人の同級生で

先生の後に付いたのは

める住田町上有住の中埣

た。山の神秘さどの出会 呼ばれることも後で知っ がした。そこが原生林と 言いようもない森の臭い

ぶ専用船に乗り組み、

後、中国、東南アジア、中 国各地をまわった。その

近東、豪州、欧州、北米

で廻るタンカーや自動車 飛徹積船に乗った。

たのを機に生まれ里に

会社の合併が進んでい

"宝"を発見することに あったことが「意識」し 気がつかなかった地元の これまで「無意識」 C られている様子が伝わっ 母・老子が日々の所作で てくるからだ。 「人には親切にしなさ 今はいない父・岩尾、

なった。

訪れる人を案内したくなる〝お気に入りの場所〟 「本宿川上流」



(75)

知れない。

こなかったものが見えて

で、進んで人を案内する い」と教えてくれたこと

けでなく人との出会い

ようになっているのかも

て捉えることで、見えて

交わり、そこに育まれる ことが、私の人生に重な 絆の大切さである。四十 、登山をした日の

三年前、

大きな岩が重なり合